

松井克浩の Twitter 2020 年 7 月(抜粋)

今月の「つぶやき」を抜粋で集めました。

【6 月 26 日】

[今月の Twitter 2020 年 6 月\(抜粋\)](#)

【6 月 27 日】

「五十代から必要なのは『友人』より『同士』」

【6 月 28 日】

「極限を超えれば次はそこが極限になる」

【7 月 1 日】

改正道交法が成立。

【あおり運転に関するポイント】

- ・あおり運転を「妨害運転」と規定
- ・罰則として、3 年以下の懲役又は 50 万円以下の罰金、著しい危険を生じさせた場合は 5 年以下の懲役又は 100 万円以下の罰金
- ・違反 1 回で即運転免許取り消し

【7 月 2 日】

[NPO 法人の収益事業は法人税の課税対象か？](#) | 大阪の企業会計の主治医

「法人税法上の収益事業」と「特定非営利活動促進法(NPO 法)におけるその他の事業(収益事業)」との関係を明らかにします。



引きこもり、親の介護、生活困窮の相談窓口を一本化。

厚労省が市区町村の体制整備を促すべく、国が財政面で支援する方針を決めました。

- ・断らない相談
- ・就労、居住、居場所の提供
- ・住民同士が支え合う地域づくり

早ければ 2021 年度から実施されます。

【7 月 3 日】

[児童虐待16万件](#)

【7月4日】

「いまできないことは、いくつになってもできない」

新型コロナウイルスと裁判員裁判

【7月5日】

「何かを考えるときに最も重要なことは『垣根を設けない』ことである。」

【7月6日】

103万円の壁と130万円の壁、さらに150万円の壁。どうクリアすべきか！ | 大阪の企業会

計の主治医

奥さんのパート時間をどこまでに抑えればいいのか、奥さんだけで考えていませんか？



高齢者を”お荷物”扱いする風潮が生まれていませんか。長生きが悪いのではありません。政治が超高齢化社会への対応をしてくれただけです。少子化対策も同様に皆無。

取り組みが変われば、社会は全く違うものになります。

【7月8日】

改正道交法が成立。

【高齢運転者対策に関するポイント】

- ・一定の違反をした75歳以上の高齢者に運転技能検査(実車試験)を義務化
- ・検査に合格しなければ免許更新不可
- ・安全運転サポート車(サポカー)が条件の限定免許を創設

【7月9日】

NPO法人に特有の取引に関する会計処理の解説 | 大阪の企業会計の主治医

特有の取引に関して、どんな場合にでも会計処理を求めているのではありません。「注記による説明」も「活動計算書での開示」も考えられます。



金銭感覚を狂わせるキャッシュレス化。少年の万引きによる摘発・補導件数に占める小学生の割合が3割を超えました。中学生を逆転。子供が現金を見る機会が減って、リアルな金銭感覚を養いにくくなっているのでは。電子マネーの残高を気にする癖を。

【7月10日】

ペットボトルの全量再生

大都市部への若者の流入。昔から起こってきた現象ですが、今後はその絶対数が減っていきます。すると近未来はどうなるか。

大都市部では総人口はあまり減らず高齢者の実数が増加。一方、地方では総人口は減少するが高齢者の実数はさほど増えない。

つまり大都市部で高齢化が大問題に。

【7月11日】

「人間の本当の信頼とは、地位や立場、役割を超えたところになければならない。」

【7月12日】

「現状状態をしながら自分を変える。」

【7月13日】

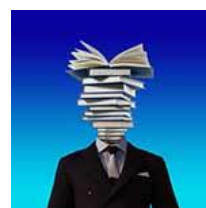
大阪市は独自テストで校長評価。2019年度の全国学力テストで、大阪市は政令市の最下位からは脱出しました。

大阪市は学力テストの結果を教員の給与や人事評価に反映させる方針を2018年に表明後、断念。代案として従来から大阪市・府で実施しているテストを活用することを検討中。

【7月14日】

会社再建時に悩ましい「評価損益の計上」と「欠損金の期限切れ」問題 | 大阪の企業会計の主治医

期限切れ欠損金を含めた欠損金を損金算入できる制度が準備されていません。



空き家の解体・修繕 7,500 件。特措法が施行された 2015 年 9 月から 2019 年 9 月までの累計値です。市町村は、放置すれば倒壊の恐れのある空き家の撤去等を所有者に助言・指導。改善されない場合は勧告、命令。従わなければ代執行で強制的に取り壊す場合もあります。

【7月15日】

教員の役割変化。コロナ禍では web 教材やリモート授業が子どもたちの学びを支えました。今後タブレットの導入がさらに進むでしょう。これからの教員に必要なことは知識を教えることではなく、子どもの思考を高めるように支援すること。

指導者から支援者へ。

【7月16日】

若い世代の医療費の伸び。2000年からの16年間で、65歳以上は10%増に対し65歳未満は24%増でした。特に子供は4割増。地方自治体の助成によって受診回数が増えたとみられます。少子化対策にはなるものの過剰な受診を誘発。

医療費の膨張は高齢化だけではなさそうです。

【7月18日】

「幸せなのは過去でも未来でもない。今だけ。」

【7月19日】

「『解を問う』のがこれまでの教育。『問いを問う』のがこれからの教育。」

【7月20日】

[過去最高の空き家率](#)

【7月22日】

若者の睡眠時間は10年間で1割増。20～34歳を対象にした毎年の調査で2019年に平均8時間になりました。

要因は就寝時間が早まったため、仕事や夜遊びよりも自宅で過ごすように生活様式が変化しています。横になってスマホを触っているうちに眠ってしまう可能性もあります。

【7月25日】

「ちゃんと生きていれば、いい所へ流れ着く」

【7月26日】

「恐怖をつくりあげるのは、想像力の働きなのだ。」

【7月27日】

戸別訪問で引きこもり家庭の支援。周囲に相談できないことが問題を深刻にしています。そのため戸別訪問する自治体職員を4,500人ほど全国に配置します。一方で当事者への調査では半数以上が「相談したいとは思わない」と回答。

粘り強いアプローチが必要になります。